

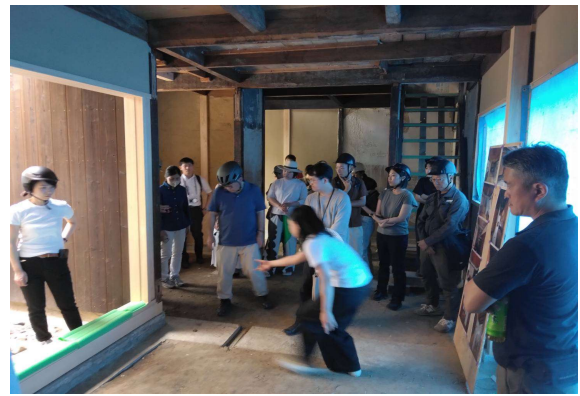
作事組だより

第 128 号 (2024年11月発行)
一般社団法人 京町家作事組
〒604-8241
京都市中京区三条通新町西入釜座町32
Tel 075-252-0392 Fax 075-252-2392
E-mail: kyomachiya@sakujigumi.com
事務局開局時間: (月)9:30-12:30
(火・木・金)9:30-16:30(祝祭日を除く)



【A邸構造改修完成見学会報告】

かねてより1年ほどかけて改修工事を行っていた北裏白川筋の建物群の大規模修繕工事がひと段落し、6月15日に工事完了の様子をご覧いただく現場見学会を行いました。午前・午後の二部制で開催した本見学会は、延べ70名近くの方々にお越しいただき、盛況のうちに終了しました。現場での販売用に準備した作事組による改修技術書も完売し、改修工事への関心を垣間見ることができました。一部未完の現場で足元の悪い中、みなさん果敢に上下階を行き来して見学されていたのが印象的でした。



今回我々が担当した工事は、オーナーによる建物三棟の維持管理工事で、現在は新たな借家人によるテナント内装工事が進行しています。空き家になっていた大型町家を、維持保全を目的として改修し、テナントによる運営事業で利活用される本事例は、工事以外の視点からも関心が高く、参加者は建築関係者はもちろん不動産関係者や行政担当者などの専門家から、学生や外国人など町家改修に関心を持つ一般の方々まで、多種多様な顔ぶれがお揃いでした。さらに見学会にはテナント関係者の方々にもご参加いただき、今後の展望についてもお話しいただくことができました。

テナント内装工事前の見学は、構造改修後の躯体の骨組みや外装を刷新した下地の様子をご覧いただく良い機会でも、現場に貼り出した工事着工前の写真と見比べながら、三棟それぞれの成り立ちや用途の違い、改修方法などを順次お話ししながら各棟をまわり、質疑応答などを行いました。主に、設計担当者から建物概要や前後の用途を、施工担当者から工事概要や工程をご説明し、さらに現場に常駐していた棟梁からは改修方法や工事の見どころを語っていただきました。通常、完成時には隠れてしまうことも多い足元や躯体の部分的な改修跡などを施工者の言葉と見学者の反応とともに共有できたのは、設計者としても非常に充実した意義深い時間となりました。

終盤の自由見学時間には、見学者や関係者が前栽の縁側に腰掛けながら改修工事や今後の建物活用について歓談しておられ、テナント工事後の利活用的一端が垣間見えたようでした。様々な立場の参加者がそれぞれの視点で知識を深め、伝統建築の価値と可能性について考える良い機会となったかと思えます。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

(京町家作事組理事・設計担当 南麻衣子)



【壬生I邸改修工事の概要】

立地は壬生であるが壬生寺界限とは少し離れたお土居の外側で、お土居上に山陰線が開通されているものの大正中頃までは壬生村で田畑しかなかった地域である。古地図上で大正末には街路による区画が見られ市街化が始まっている。建設年代は不明ながら昭和10年前後と思われる。

建物は長屋の一角で現況は3軒長屋の真ん中に位置する。元から専用住宅として建てられたもので、玄関は落ち屋根となっている昭和初期型の町家で、1階の腰壁と2階の外壁には当時はやりのスクラッチのレンガタイルが貼ってあり、その下地は土壁で部分的に剥落しているものの、むしろ90年前後もっていることに感心する。一列2室(3帖、4.5帖)総2階で構造は市街地建築物法以降のため側壁には基礎、土台が、桁位置には梁と申し訳程度に火打梁が入っている。

構造上の変形は30mm弱の沈み、20mm以下の歪みが見られたが、建具の建付けや見た目の歪みは気にならず、長屋の真ん中でもあり、構造改修は実施しないこととした。

施主は30歳の若い夫婦であるが、移る前の住まいも伏見の路地奥長屋であり、町家の温熱環境についての説明は不要であった。とはいうものの当然椅子式生活で育っていて、いまさら座敷を勧めることは無理があると思われたし、意匠空間上の目線に注意しながら設計を進めれば、逆に座椅折衷のユニークな住まい方が実現できると思われた。

主な改修項目は、外部においては大屋根及び下屋の瓦の部分修理、オモテ2階の外壁タイル張りを杉板と漆喰塗に、オモテ開口のアルミサッシを木建に(ウラ2階はアルミサッシ更新)、内部においては雨漏りで腐朽が進んだ間取りを含めた水廻りの改修、1階オクの間の床を撤去して三和土の土間に、2階は壁の繊維壁をこそげて水ズリ押え、すでに撤去されていた天井はそのままに屋根裏面に断熱のうえ板張りなどであり、そのほかはタイル貼り流しをそのままにすることや荒壁を含め補修程度であり、施主の意向もあって時の流れを映す傷み等はあえてそのままという方針であった。

座椅折衷や目線の調整は、1階は土間と室床のレベル差で、2階は座高の低い手持ちのソファ等で違和感なく収まっていて、当初の予想通りのユニークな生活空間が実現している。

(京町家作事組理事・設計担当 梶山秀一郎)



改修前 1階



改修後

【シリーズ：新・町家構造事始 第2回】

前回の作事組だよりではwallstatというシミュレーションソフトを用い、京町家の構造性能評価で新しく分かったことの概要をお伝えしました。では、京都では、現在一般的にどんなツールによって個別の町家の地震に対する性能が測られているのか？それはいつからなのか？少し前のことを簡単に忘れてしまうと自戒を込めながら、少し先の展望までを整理したいと考えます。

京都市の建築行政で町家の耐震性能評価の根拠にしているのが「京町家の限界耐力計算による耐震設計および耐震診断・耐震改修指針」です。市で行われている無料の耐震診断はこの指針に基づいています。今年度からの「総額300万円の町家の耐震改修助成！」もこの診断に沿う改修が対象です。建築基準法を外す「3条適用除外」の自主条例も町家に関しては、この「指針等」に基づいての診断が必要になります。

この指針が策定されたのは2007年です。その2年前に国の大型振動実験台(Eディフェンス)に移築された京町家が実際に揺らされました。「意外と京町家は強い」との認識が広まった契機に連なります。ではそれ以前は？戦後の在来工法による建物と伝統構法による町家の耐震診断に全く区別はありませんでした。壁量換算による耐震評価が主流、しかも土壁の壁倍率は2003年まで0.5(時に実験値の1/10!)。控えめに言っても歴史的、文化的な価値以外、町家の存在は工学的に全否定でした(戦後の60年間!)。診断するだけ無駄、これで「京町家の保全を」と言うのはあまりに無理。町家減少が景観行政からも明白な課題となった時期と指針の策定は重なります。時代の要請に応じて、町家の耐震を技術的に評価できる道筋を作った京都市の成果です。

同じ2007年、時の福田内閣は200年住宅を看板政策の一つに揚げ、2008年にはその一環で、国交省で「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会」が立ち上がりました。2009年、「楽町楽家」のイベントの一環で、委員長の東京都市大の大橋先生を招き、京町家再生研究会や作事組の実務者と公開の意見交換会を行いました(写真1)。当時の京極迪宏作事組監事の声掛けによります。建築行政関係や学識者、他府県からも百数十名の参加者がありました。作事組も活動10年間の実績を引っ提げて、それなりに

プライドを持って臨みましたが、歴史や精神論が空回り、工学的、政策的な議論になりませんでした。「意匠屋ばかりで何を根拠に改修やってんねん？」これが司会を務めた筆者の受け取った課題でした。

そこから1年間、町家改修の実務から課題となる構造性能を考察した内容が「町家構造事始」というブックレットです(写真2)。構造解析の手法とは関係なく、町家の簡易な模型と、先のEディフェンスの映像、現場での知見や荒木棟梁からの教えをもとに考察を重ねました。現場で混同されがちな町家の「状態評価」と「性能評価」は分けるべきこと、XY方向の要素の足し算ではなく町家は三角柱のばねの性能で自立すること、耐震ではなく変形性能で地震に備えること、その点から大正以前型と昭和初期型で性能に差があること等、考察をまとめました。大橋先生との次の議論を期待しましたが、あえなく年内に政権交代、翌年から委員長以下、京大系に代わりしました。京町家棟梁塾が建築基準法の相対化の実践活動として国会で取り上げられたのもこの時期です。すこし期待は膨らみましたが、総論として委員会では、町家でもなく、民家でもなく、日本の何処にもない建物を伝統「的」構法で新築し、実験するうちに再び政権交代を迎えて検証は終わりました。

しかし、国の取り組みとは別に、伝統建築を巡る建築指導行政は、京都市を筆頭に地方分権が進む様相となっていきます。2012年に建築基準法を外す「3条適用除外」の自主条例が日本で最初に制定され、京町家の活用や増築の道筋が開かれました。同時に「京町家出来ること集」によって改修工事の範疇が定まり、つづくりと建築基準法の住み分けが一般化しました。従ってその後の町家の改修では本質的な構造性能評価の必要は実務上、顕在化せず、10年をことなく経たのが昨今の状況だと考えます。

さて、今年の初めに京都市では「町家の新築に向けた図書省略認定」の取得に向けた取り組みを発表しました。新築に向けて改めて京町家の構造性能評価が問われます。一方、作事組では一昨年からの町家改修の事例集出版が企画されています。その編集会議で学芸出版社の知念氏から紹介があったのが前回から話題に挙げるwallstatです。作事組の井澤氏が立命館大学で伝統軸組工法を研究する井上君や開発者である京都大学生存圏研究所の中川貴文先生の協力を得ながら、京町家の倒壊シミュレーションを試行錯誤しながら行いました。結果14年前のブックレットの仮説が初めて工学的に検証できたかと考えています。その成果を京都市の町家新築の取り組みや耐震改修助成の指針ともいづれ共有できるように働きかけようとしています。



写真1

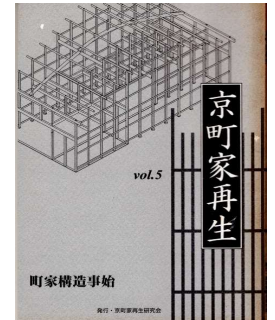


写真2

【祇園祭後祭イベント報告】

祇園祭後祭期間の7/21～23（日～火）に合わせて、今年も作事組事務局のオープン町家を行いました。今年は初めて、解体された町家から引き揚げてきた明治から昭和初期の古道具市も開催しました。

3日間とも日中は36℃の猛暑で、さすがに行き交う人も少ない時間帯もあったのですが、夕方に差し掛かると人出も増えて、最終日にはヨーヨー釣り・冷たい飲み物ともに完売することができました。今年でこのイベントも3回目とあって、お客様に

「去年もやりましたよね？」とか「去年も来たんですよ～」などと声を掛けてもらえることも増えて、とてもうれしかったです。

イベントの始まる前は、売れるかどうか心配した古道具も8割がた売れました。ずっと使われずに眠っていたお道具たちが、新たな使い手の元に喜ばれながら旅立っていき、本当に良かったです。

(京町家作事組事務局 阿部景子)

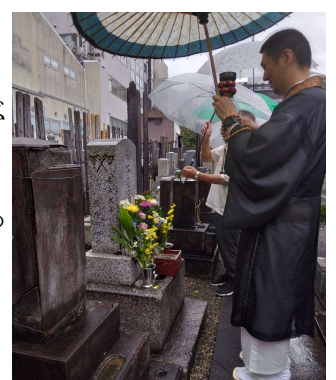


【釜座町地蔵盆・斧屋法要 開催報告】



写真左：8/24(土)今年も釜座町町家で無事に地蔵盆が取り行われました。コロナが明けて5年ぶりの通常開催ができ、喜ばしい日でした。

写真右：10/19(土)に裏寺町にあるお寺さんで、町家を釜座町に寄付して下さった斧屋一家の法要がありました。感謝の気持ちでお参りさせていただきました。



【作事組古道具市】

作事組では、残念ながら取り壊された町家から救出してきた建具や古道具などを安価にて販売させていただいております。Instagramに写真を載せていますが、新入荷のものをここでも紹介いたします。

もちろん取付・設置・建合せ・灰汁洗い・古色塗り等も行いますので、気になるものがございましたらお問合せください。

【QRコード】

作事組Instagram



#23 水屋箆笥

幅1500×高さ1680×奥行430



#24 桐箆笥

幅940×高さ1070×奥行420



#25 箆笥

幅880×高さ1000×奥行400

【新入社員紹介】



薨技塾 徳舛瓦店 有限会社

一級瓦葺技能士、瓦屋根工事技士、
文化財建造物保存修理工事参加資格

薨技塾(いらかぎじゅく)徳舛瓦店の徳舛秀治(とくますひでじ)と申します。弊社の創業は明治の初めで、私で5代目になります。現在、私と職人7人で、町家から寺社仏閣まで、幅広くお仕事させていただいております。

弊社でも、父の代から瓦職人の養成所を開いており、今まで約200人の人材を輩出してきました。今回、作事組のモットーである「技術の継承と若手の育成」にあこがれ、入会させていただきました。

目に見えない最初の段取りと下地作りに常に時間をかけて取り組み、大らかで安心・安全・快適な瓦屋根に仕上げるように心がけています。



太秦瓦店

一級瓦葺技能士、職業訓練指導員(屋根科目)

太秦瓦店の谷口良明と申します。下京の天使突抜にある島田瓦店で18歳から30年以上修業し、島田瓦店を引き継ぐ形で2年前に独立しました。事務所は下京にありますが、自分が太秦生まれ太秦育ちで太秦愛が強いので、店名に太秦の地名を入れました。

瓦は防火・耐火性に優れ、美しい街並みを形成するだけでなく、古来より天然素材でできており、捨てても害にならないところが魅力だと感じています。

ふと屋根を見上げた時に、絵になる風景をこれからも維持できるよう、丁寧な仕事をしてお客様に喜んでいただきたいと思います。



株式会社 溝口設備工業

給水装置工事主任技術者、京都市指定業者
一級管工事施工管理技士

溝口設備工業の溝口雅也と申します。祖父が水道屋をしていて、父が弊社を開業し、僕で3代目になります。小学校から大学まで器械体操をしていたため、体力には自信があります。町家の仕事は、土管から塩ビ管に変える仕事为主ですが、思わぬところに石があったり、設計図通りにいかないことがほとんどです。機械が入らない狭い敷地の時は、手掘りの時もあります。なので、無事工事完了したときの達成感はひとしおです。

町家以外の仕事でも、お客様に少しでも長く使ってもらえるように、継ぎ手など見えないところにちょっとした手間をかけるようにしています。弊社は常時職人は7名在籍しているため、緊急の水回りのご相談もお気軽にお声掛けください。